

特定非営利活動法人日本パラパワーリフティング連盟 令和7年度
第1回総会 議事録

会議概要

- **会議名:** 令和7年度 第1回総会
- **日時:** 2025年6月26日(木) 20時
- **形式:** オンライン会議
- **出席者:** 石田 直章, 高橋 省吾, 中元 伊知郎, 吉田 寿子, 岡本 孝義, 吉田 進, 瀬尾 桂一, 大堂 秀樹, 岡田 有史, 中村 晃子, 吉田 彫子, 佐藤 勇介,
- **議長:** 吉田 彫子
- **議事録作成者:** 佐藤 勇介
- **議事録承認者:** 石田 直章, 高橋 省吾

1. 開会および役割の確認

石田直章理事長より開会の挨拶があり、本年度第1回総会が定刻通りに開会された。議事進行に先立ち、本総会における役割分担が協議された。議長には吉田彫子が、議事録作成者(書記)には佐藤勇介がそれぞれ推薦され、両氏の承諾を得て正式に決定した。また、本議事録の承認者として、石田直章理事長および高橋省吾が選任された。

2. 議事

2.1. 昨年度決算報告

中村晃子氏より、貸借対照表および損益計算書の主要なポイントについて詳細な説明が行われた。

a. 貸借対照表の主要な変動点 昨年度の資産および負債における主な変動点として、以下の事項が報告された。

- **工具器具備品の増加:** 資産の部において「工具器具備品」が前年度比で大幅に増加した。これは、DENBA JAPAN より電磁治療器を購入したことによるものである。
- **未払金の増加:** 上記の治療器購入代金が期末時点(3月31日)で未払いだったため、負債の部において「未払金」が対応して増加した。

b. 損益計算書の分析 昨年度の経営成績について、収入・支出の両面から分析が行われた。前年度との比較において、赤字幅は縮小し、財務状況の改善が見られる。

c. 主要経費の詳細 販売費及び一般管理費の中で、特に金額が大きかった「外注費」と「旅費交通費」(それぞれ約1,500万円)の内訳について、以下の通り詳細が報告された。

- **外注費の主な内訳:**

- 事務委託費
- 大会運営委託費
- 個人への業務委託費
- スポンサー獲得支援サービスの利用費

• **旅費交通費の主な内訳:**

- ジョージアワールドカップ遠征費
- 国際育成プロジェクト事業費
- 全日本大会交通費
- 日常練習会交通費（年間累計）

報告の最後に、吉田彫子氏より補足説明があった。助成金の多くが事業完了後の精算払いを原則としているため、事業遂行中の支出との間で一時的な資金の需給ギャップが生じ、短期借入金が発生する構造的な課題があることが指摘された。この課題を解決するため、今年度は自己資金の根幹となる協賛金の獲得を最優先事項として取り組む方針が改めて強調された。

2.2. 監査報告

監事である中元伊知郎氏より監査報告が行われた。

中元氏は、第 11 期（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）の決算報告書および関連書類について厳正な監査を実施した結果、すべての会計処理が適正に行われていたことを確認したと報告し、これを承認した。

この監査報告をもって昨年度の決算は確定された。

2.3. 今年度予算案

吉田寿子氏より、4 月 17 日時点で作成された予算案が提示され、その詳細が説明された。

2.4. 事業計画および各委員会報告

連盟のビジョンを具体的な行動に移すための事業計画と、それを推進する各委員会の活動状況が共有された。

a. 事業計画（大会・合宿予定） 上半期の主要な活動予定が以下の通り共有された。

- チャレンジカップ大会の開催
- 7 月中旬にブラジル人コーチを招聘しての強化合宿の実施

b. 地域組織委員会報告（岡本氏） 昨年度から継続している地方での普及活動「キャラバン」の進捗が報告された。

- **活動名称の変更:** 今年度より活動名を「筋肉でつながる。パラパワールフティング研修会 & 体験会」に改称。

- **活動実績:** 先週、鳥取県での研修会・体験会を成功裏に開催。
- **今後の予定:** 今後、山口県、大阪府、佐賀県、および四国地方での開催を計画している。

c. **マーケティング委員会報告（佐藤氏）** 今年度の最優先課題であるスポンサー獲得活動の現状について報告された。

- **進捗状況:** 年間目標 300 万円に対し、現在の獲得額は 185 万円。6 月時点で目標の半分以上を達成しており順調な滑り出しだが、目標達成に向けて下半期の活動が重要であるとの認識が示された。
- **広報連携:** PR TIMES 社のプレスリリース配信サービスを無償で利用できる提携を結び、広報活動に活用している。

d. **広報委員会報告（吉田彫子氏）** マーケティング活動と密接に連携した広報戦略について報告された。

- **情報発信の強化:** PR TIMES を活用し、月 2～3 本以上のプレスリリースを積極的に配信。
- **発信内容の工夫:** 競技の魅力だけでなく、パラパワーリフティングがもたらす「社会貢献」の価値を伝える視点で情報を加工し、発信している。
- **組織文化のアピール:** 連盟の強みである「風通しの良さ」や「多様な立場の人々が協働する文化」をアピールしており、その一環として、選手や事務局など立場を超えて対話する「次世代会議」を月 1 回開催している。

各委員会の報告が終わり、全体の質疑応答へと移行した。

2.5. 質疑応答

各報告内容に関して質疑応答が行われた。特に、昨年度の決算で購入された医療機器について質問が寄せられた。

- **質問（中元伊知郎氏）:** 昨年度決算で購入した医療機器（電磁治療器）は、今週末のチャレンジカップで実物を見ることは可能か。

- **回答（吉田彫子氏、佐藤勇介氏）:**

- はい、可能です。チャレンジカップ会場に協賛社（DENBA JAPAN 社）のブースが設置され、来場者は実際に機器を体験することができます。

- この機器は 3 月の全日本選手権で試験的に導入され、試用した樋口選手、田中選手、桐生選手が全員日本新記録を樹立するという好成績につながった実績があります。

- また、継続的に使用している西崎選手やコーセイ選手からは、「長年の体の痛みがなくなり、トレーニングが楽しくなった」といったポジティブな感想が寄せられており、選手のコンディショニングに貢献しています。

2.6. その他報告事項

吉田 進氏より、国際審判員として視察した北京ワールドカップに関する報告が行われた。

- **新ルール「バーストップシステム」の状況:** 新ルールで導入が予定されていた「バーストップシステム」は、まだ開発段階にあり、同大会では使用されていなかった。10月の世界選手権での導入を目指しているとのこと。
- **判定基準の厳格化:** パリパラリンピックにおいて、バーが胸で十分に静止していない試技にも成功判定が下されたことへの反省から、バーを胸で完全に静止させることに対する判定基準が国際的に厳格化されている傾向が確認された。
- **国内大会への適用:** この国際基準に合わせ、今週末のチャレンジカップにおいても、同様の厳格な基準で判定を行う方針であることが確認された。

3. 閉会

以上をもって、本総会で予定されていた全ての議事が滞りなく終了し、各議案が承認されたことを受け、石田直章氏が閉会を宣言した。

以上、本総会の議事内容を証明する。

議事録承認者

令和7年10月28日

石田 直章



高橋 省吾

